

# 組立・日常点検 長くご使用いただくための ガイドブック

[ wimo電動アシスト自転車 ]



<https://www.wimo.co.jp/>

## 組み立てをされる方へ

- 組立説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に組み立ててください。記載されていない方法や、指定部品以外での組み立てにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。その組み立てが原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
- 工場より出荷された自転車は規格によって正確に組み立てられておりますが、輸送中の振動・衝撃によりナジミや緩みが生じることが考えられます。本体各部の締め付け、タイヤの空気圧などを点検・調整の上、ご使用ください。
- 組み立て完了後、バッテリーを満充電してください。3か月以上の長期保存した時にも、満充電をしてください。
- 組み立て完了の自転車は「取扱説明書」にある「点検・整備チェックリスト」にて確認を行い、必ず実走によるブレーキテストを実施後ご使用ください。
- 製品保証を受けるため、必ず保証書とご購入したことが証明できる書類（領収書など）を保管してください。
- 防犯登録が義務化されているため、自転車販売店などで登録を行ってください。

※説明で、図などが多少異なりますが取り扱いおよび組み立て方はほぼ同じです。

ガイドブックはメンテナンス時にも参考になります。  
取扱説明書と一緒に保管することをおすすめします。

# けがなどを防ぐために

## ⊘ 禁止

- はめ合わせ限界標識が見えるまで上げない（シートポストが折れて転倒によるけがのおそれ）

## ⓘ 必ず守る

- 調整後は必ず点検する  
(シートポストが折れて転倒によるけがのおそれ)
- サドル上面を水平に組み付ける  
(サドル固定ボルトが折れたり、固定が不安定になったりし、転倒によるけがのおそれ)  
(固定力不足によりガタつきが発生したり、最悪転倒してケガをする可能性)
- 注油禁止場所（ベルト、リム、ブレーキブロックのゴム部など）に注油しない  
(駆動力、制動力が低下し、転倒や衝突によるけがのおそれ)
- ロックナットは確実に締め付ける  
(ブレーキの調整が狂い転倒や衝突によるけがのおそれ)
- ステムコラム、ハンドルバー固定部は必ずしっかり締め付けを行い、確実に固定する  
(ハンドルがぐらつき転倒によるけがのおそれ)

# 1 ハンドルの固定・調整

- **1.1** 梱包時後ろ向きになっていたタイヤと一緒にハンドル（ポスト）を前に向くように戻す。

注意：引っ張り過ぎてケーブルが切れてしまう恐れがあるので、ご注意ください。

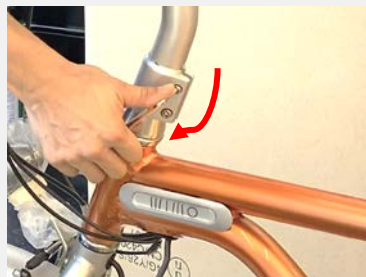


- **1.2** ハンドルバーと前輪が直角になるように注意しながらハンドルステムをフォークコラムの根元までしっかりと差し込む。



- **1.3** ハンドルポスト下部のネジをしっかりと締めて固定する。

注意：締め付け過ぎて部品が破損してしまう恐れがあるので、締め付け具合が分からない場合は無理をせず、必ずお近くの自転車販売店にご相談ください。



- **1.4** 締め付け後、前車輪を両足ではさみ、両手でグリップ部分を握り、ハンドルを強く左右に回して、ハンドルバーが前車輪に対して回転しないことを確認する。



- **1.5** 固定後ブレーキレバーを握ってブレーキが効くことを確認する。

- 握りしろはレバー初期位置から1/3まで握った時にブレーキがしっかりとかかることが目安。ブレーキを握った時にブレーキシューが左右均等にリムに当たる。



## 2 サドル（シートポスト）の固定

- 2.1 乗車姿勢でサドル高を合わせ、カムレバーでしっかりと固定する。



注意：固定が弱いと乗車中にサドルが回ってしまったり、高さが変わってしまったりすることがあり、大変危険です。

- はめ合わせ限界標線が見えるまで上げない。



(シートポストが折れて転倒によるけがのおそれ)

- 2.2 カムレバーで固定した後は必ずシートポストが確実に固定されているか、フレームを両手で挟んでサドルの前後を持ち、強く左右に回して動かないか確認する。



## 3 ペダルの取付

- 3.1 クランクにペダルのシャフトを回し、スパナで締め付ける。



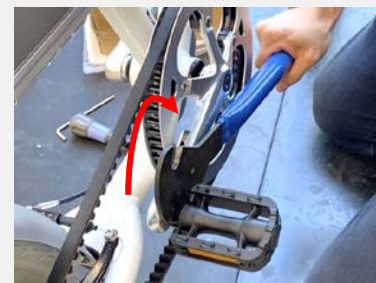
- 左ペダルの先端部に「L」字が書いてあり、ねじ山の手前はギザギザの形になっている。

- ペダルは左右でねじ方向が異なり、左ペダルは左ねじで、左にねじ込むことで締まる。右ペダルは右ねじで、右にねじ込むことで締まる。



※車体が前に向かった時に、ペダルも前方向で回せば締まる。

- スパナでめいっぱいまで締め付ける。



注意：締め付けがゆるかったり、斜めにねじ込んでしまったりすると乗車中に外れてケガをすることがあり大変危険です。

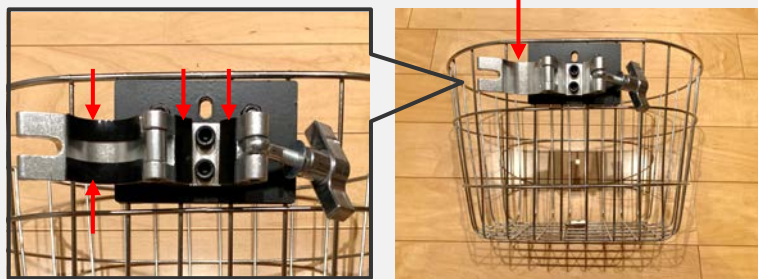
取り付け方法が分かりにくい場合は無理をせず、必ず近くの自転車販売店に相談してください。

## 4 フロントバスケットの取付 (フロントバスケットは自転車本体と別売りのアクセサリーです)

- 4.1 傷防止用ゴムパットを付属品セットから取出し、固定用アタッチメントの内側に貼り付ける (新型改良品は貼り付け済みです)



注意：固定時の締め付けによる傷を軽減する効果がありますが、完全に防止するではありません。



- 4.2 アタッチメントでフロントバスケットをステムコラムに固定すれば完成。

注意：ワッシャーをアタッチメントアームの外側におく必要があります。

耐荷重は5kgまでです。



- 4.3 付属品からステー固定用パーツを取出し、ステーの下部に取付ける。

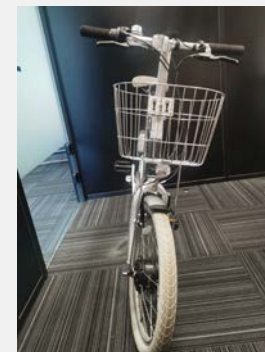
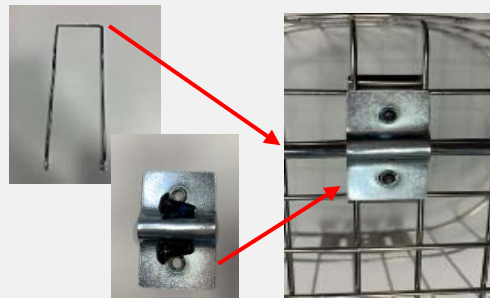


- 4.4 フロントフォーク固定用ナットを外してからステーを取付ける。



注意：車輪のナットを閉める時に車輪がフォークの爪部分にしっかりハマって、フォークの中心に車輪が来ているかを確認し、しっかりとナットを締め付けで固定します。特に前輪ナットの締め忘れは、重大な事故が発生する可能性もあるので確実に閉めておく必要があります。

- 4.5 ステーの上部を固定プレートを通してフロントバスケットの下部に固定すればステイの取付が完了。



※新型改良品のネジ類、金属固定板などの色はシルバーです。

説明用写真の中の部品の色、車体の色など異なる場合があります。

※補助ステーの取付は必須ではありません。フロントフォーク（モーターの近く）への取付による部品破損、故障が保証対象外になりますので、慎重に作業する必要があります。取付方法が分かりにくい場合は無理をせず、近くの自転車販売店に相談してください。

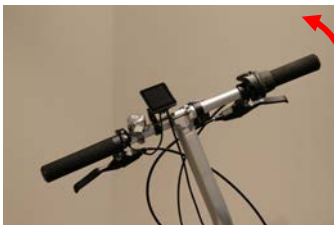
# 日常点検

安全に自転車をご使用いただくため、定期的に点検をお願いします。自転車をご使用に伴い、ネジ部の緩みやパーツの老朽、異常などが出てきます。早めに問題を発見すれば、危険を予防することができ、自転車のロングライフにも繋がります。異常がありましたら、速やかにメンテナンスを実施するか、またはお店にご相談してください。

ブレーキレバーを握って隙間が1/3になるまでによくきくか？



がたつきはないか？  
ハンドル、グリップに緩みはないか？



ディスプレイにひび割れはないか？  
電源を入れたとき、表示は正常か？



固定に緩み、がたつきはないか？  
限界標識より上げていないか？  
サドル回ったり、抜けたりしないか？



ケースにひび割れやがたつきはないか？  
バッテリーはしっかりと装着できるか？



ブレーキワイヤー、シフトワイヤー、スイッチハーネスなど配線が外れたり切れたりしていないか？



落下や衝撃による損傷はないか？  
充電はできているか？



ブレーキワイヤーにサビ、切れはないか？  
ブレーキシューが1mm以上あるか？



約10cm

タイヤの空気圧は適正か？  
タイヤは摩耗していないか？  
スポークに曲がり、切れ、緩みはないか？  
リムは変形していないか？

滑らかに動くか？  
ひび割れや緩みはないか？



フレームやフォークに、変形、亀裂、膨れなどはないか？

自転車を10cmほど持ち上げて軽く落とし、異音はないか？

電源ON、アシストモードONの状態、ペダルを踏み込み発進させたとき、電動アシストするか？

発進時、通常発生しない異音、煙や異臭はないか？

# 長く使用するため

より長く安全に使用していただくため、簡単なメンテナンスや使用コツをご紹介します。  
より専門的なメンテナンスについては販売店にご相談してください。

## ワイヤーへの注油

ブレーキレバーの横の隙間からスプレーし、何度か握ってなじませましょう。

## ブレーキの確認

ブレーキシューが1mm以上あるか、ブレーキレバーを握り切った時に左右が等しくリムに当たるかを確認しましょう。

**注意：ブレーキは命に係わる重要な部品です。調整方法が分からない場合は絶対に無理に触らず、近くの自転車販売店に相談してください。**

## パンク予防

月に1、2回はタイヤに空気を入れましょう。

自転車にまたがって体重をかけたときに、地面とタイヤの接地面が約10cm程度になるくらいの空気圧が目安となります。

## 本体の拭き掃除

「砂ぼこり」や「泥はね」などがありましたら、柔らかいクロスで拭き取りましょう。

## サドルの長持ち

車体を持ち上げる時、サドルではなく、サドルの下にある持ち手を使いましょう。

## 防水防塵機能の維持

バッテリーボックスはしっかり閉めましょう。

## バッテリー劣化防止

電池が完全に切れる前に充電しましょう。

長期使用しない場合は3ヶ月に一度に充電しましょう。

## かぎの動き

かぎの動きが鈍くなったら、動作部に自転車油を注油しましょう。

## ベルトのクリーニング

クロスで拭いて掃除しましょう。

**注意：注油は禁止です！**

